



太陽の薔薇の紋章 叙事詩 Ivellea Ivernen

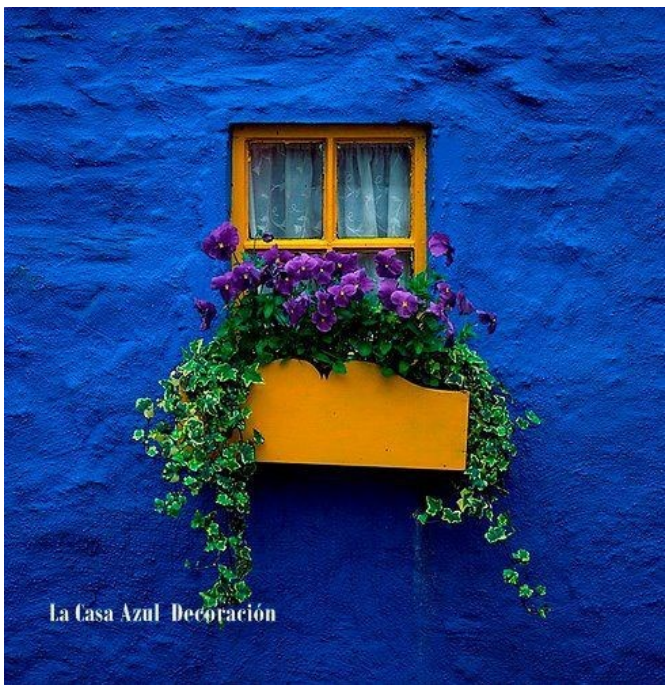


虹彩^{ニロハ}という、瞳の闇を調整する筋肉の一種色素がなく、太陽の青い光線が吸収されないまゝ乱反射することによって、眸の碧^{アヲ}は生ず。虹彩は瞳放射状の縞目の文様^{モン}を倣^ナい、ダイヤモンドのように美しい。又虹彩は蠅^{ハエ}のようでもあり、金屬^{メタル}鮮やかな化学反応による青い燐光で爛^{ラン}かに燦^{サン}めくアゲハ蝶、翻^{ヒラ}りめく燦^{サン}火のよう爛々たるモルフオ蝶^{ハエ}、ミヤマカラスアゲハのようでもある。土耳其の色、バビロンの城門の青、瑠璃^{ルリ} (Lapis Lazuli)、チニシアン・ブルー、サファイア、フレンチ・ブルー、コバルト・ブルーなどの、様々な貴意^{キイ}薔^{ハナ}薔^{ハナ}水色^{スイシキ}紺^{コン}碧^{ヘキ}群青^{グンセイ}のダイヤモンドの片の二粒一粒が鑲^{サマシ}められた爛々たる燦^{サン}拔^{ハツ}のモザイクのよう、一二つが氷の太陽の、とくコロナの炎随^{エンズイ}を瞭^{リョウ}かに炸裂^{サツリツ}の如く熾^シ耀^{ヤウ}。その鑲め方はBrilliantの光燦^{サン}がめつれるよう精緻^{セイセイ}に嵌^{ハマ}められ、又はインドラスに荘嚴^{ソウエン}された、聖の薔薇^{ハナ}のよう、Flameを倣^ナす。

そこからは、潮が氾濫し、三千億光年を超えすべての宇宙にあふれ、射し、迸^{ハネ}燃^モ々たる光輝^{コウキ}の八紘^{ヤクワ}が何もかも無限^{ミゲン}に広がりをもち、含^フめるありとある一切を倣^ナす。喩^ユ々難^{ナン}強^{キョウ}烈^{リョウ}とあるべき。

イリヤの双眸^{ソウモク}、虹彩の亂反射の捉^ツえられぬ眩^{クラ}さの原因は虹彩を蔽^{カサ}ふ角膜^{カクマク}と、角膜と虹彩との間の眼房^{ガンボウ}満ちる眼房水とが、尋常^{ジョウジョウ}ならざる晰^ハらかさでクリスタルガラスのよう透^スけているからである。その透明度は湖^{ミヅ}面^{メン}から水深一〇〇呎^{フツ}の底にある砂粒一二つが表面の出^デの一々をも精緻^{セイセイ}に解^ト析^{セキ}度^ド明晰^{メイシツ}にし、目眩^{メクラ}させるとは晰^ハらかなき未来^{ミライ}を超^スえる。

煥^{カン}り急^{キツ}事^{コト}轟^{トウ}轟^{トウ}が紺^{コン}碧^{ヘキ}に燦^{サン}々と爛^{ラン}めく。碧^{ヘキ}蒼^{ソウ}なる燦^{サン}火の如^{ゴトシ}炮^{ポウ}烙^{ロク}し、奥^{おく}になつて炳^{ホウ}焉^{エン}かななる奥^{おく}に、燦^{サン}せる貴意^{キイ}薔^{ハナ}を赫^{カク}々太陽^{タヨウ}の如^{ゴトシ}き燎^{リョウ}らかさで燦^{サン}かせる。光燦^{コウサン}の聖^{セイ}なる天^{テン}、無限^{ミゲン}に広^{ひろ}がる光^{ひかり}輻^{フツ}輦^{フン}の紋^{モン}、言葉^{ことば}ならぬ無限^{ミゲン}永劫^{エイキョク}の真^{マコト}実^ミ、人間^{人間}が一秒たりとても呼吸^{こそ}するところではない、高純^{コジュン}度の鮮^{アサガ}やかな気^き、人はイリヤの虹彩のま^ま燦^{サン}に射^や抜^ぬかれる。



La Casa Azul Decoración

